

平成24年度 第2回がまごおり協働まちづくり会議 会議要旨

日 時 平成24年 5月28日(月)
15時00分～17時00分
場 所 蒲郡市役所 新館5階 庁議室

出席者：金子副会長、尾崎委員、西川委員、山本久代委員、石渡委員、山本智史（水野委員代理）、小林康一委員

（事務局）吉見、酒井、小林正、石川、山崎

欠席者：和泉会長、竹内委員、小田委員、小林浩子委員

第2回会議決定事項

議題

(1) 平成24年度モデル事業について

- ・モデル事業は会長出席の会議で決定する

(2) 市民企画公募まちづくり事業助成金はじめの一步部門追加募集について

- ・5月25日発行の広報に追加募集の案内を掲載
- ・6月29日、30日に説明会をまちづくりセンターで実施
- ・8月19日に面接審査会を実施し、助成事業を決定する

1. 開会

2. 議題

(2) 市民企画公募まちづくり事業助成金はじめの一步部門追加募集について
事務局より追加募集実施状況について説明。

追加募集案内は5月25日発行の広報で実施。同時に市のwebページやチラシを配布。6月末に2回平日の夜と土曜日の昼間に制度説明会を実施。応募期間は7月30日から8月10日で設定。8月19日に面接審査を実施し、助成事業を決定する。

センターの方でチラシとポスターを市内の公共施設、公民館、市役所、アピタ等、ほとぼしる情熱支援部門と同じ場所を回っている。今年度は金融機関に力を入れて回っている。地域の方々へも助成金の申請のチャンスを増やす目的を考え、公民館に配布。

- 日程及び広報活動において、各委員了承。
- どの広報手段の効果が高いのかを調査すべきとの委員意見あり。事前相談に来た団体の状況を整理する。

(1) 平成24年度モデル事業について

◇ モデル事業候補「居場所づくり事業」について事務局説明。

蒲郡市は県下で2番目の高齢化率なのでその対策として社会福祉協議会が中心となって「いきいきサロン」を月に1回開催している。別な動きで、個人の方が自宅でミニオープンカフェをやっています。このような取り組みをうまく利用していけないかというのが居場所づくり事業です。

現状課題は、高齢化している、1人当たりのコストが限られてしまう、それから数が

限られているので、来所機会が減ってしまう、そうすると行く気力も低下し、家庭内の雰囲気も悪くなる。また、地域デビューを控えた大量退職者（団塊の世代）が控えているので、個人カフェの開催をどう活かすか、それを地域社会の事業として取り組んでいけないか。

行政は、サロンの開催のコストの支援は難しい。ボランティアが高齢化している。経済活動を優先する事で社会活動をする方が減っている。回数と場所を増やす事が求められているが、担い手の創出が必要。モデル事業で協働する中で、より細かく地域の高齢者の居場所を作りたい市民と、高齢者の生きがいをづくりのサロンの創出をしたい行政が合わさって、大量退職者が利用者や事業者として参加する事で、居場所づくりが進む事が重要。生きがい対策により、介護を必要とする人を減らして、大きな地域、小さな地域のカバーを進めて行く事が必要と考える。

居場所づくり事業に関する各委員意見

- 行政の支援がないと成り立たない事業。
- 事業のコンセプトをしっかりとする必要がある。例えば高齢者生きがいのためのサロンの創出であるとか。
- ミニカフェを居場所づくり事業として展開例を作るのか。今展開するだけの担い手はいないのではないかな。
- いずれ必要になると思うが、今回の事業には適さないのではないかな。

◇ モデル事業候補「緑のネットワーク事業」について事務局説明。

多くの環境整備団体が助成金を受けて事業を実施している。環境整備団体同士の交流が進み情報交換や機材の貸し借りができれば、より多様な事業展開が可能となる。また、土地の地権者情報は環境整備団体では調べることが難しい。この情報は行政が持っている。環境整備団体と土地の情報管理ができて行政が手を組めば、円滑に里山整備を実施できる。

緑のネットワーク事業に関する各委員意見

- 物品機材を団体の集合で管理できるようになれば事業効率は良い。
- 行政もネットワークを組む一つの団体として考えることができれば良い。
- 事業自体はわかりやすい。
- 団体が多くなると調整が難しくなる。リーダーシップをとる人が必要。
- 団体、地権者、行政の意識が大事。

◇ モデル事業候補「育苗事業」について事務局説明。

蒲郡市ではイベントで配布するための花苗を育てる事業を実施している。配布された花苗はボランティアの手をかりて、様々な場所に飾られ市民や来訪者の目を楽しませている。行政の育苗事業は現在縮小傾向にある。花を市内にかざるボランティアと行政が協働し、行政の育苗技術を市民団体が引き継ぐことで花苗の供給が安定し、市内をより多くの花で飾ることができる。

育苗事業に関する各委員意見

- 各家庭（個人）に協力を依頼するなどさまざまな手法が考えられる。
- 全量の花苗育成を対象とするのではなく、少量から段階的に実施していく手法を考える必要がある。
- 花に関する事業は人を参加させる気にさせる魅力がある。
- 花を育てるのが好きな人には取組易い。行政との協働を上手に実施できれば良い事業になる。
- 育てた花を飾る場所の選定も重要である。携わった人にやりがいを感じさせる仕組みが必要。
- この事業に限ったことではないが、事業を実施した後に次の担い手を生み出す工夫が必要。
- 携わった人が他から評価される仕組みも重要である。

◇ モデル事業候補「高校授業との協働事業」について事務局説明。

蒲郡高校の総合学科の授業の中で、まちづくりをテーマに授業を実施する。授業で話を聞くだけでなく、町の課題を解決する具体的な手法を学びたいとのこと。

授業で実際に現場の活動をしている人と高校生が行動を共にし、まちづくりを体感することで、学生が社会に出た時に活かせる経験をつませたいという高校の意向。機関は1月から3月で実施。まちづくりの当事者の話を高校生に伝えることによって将来のまちづくりの担い手を育成する。

高校授業との協働事業に関する各委員意見

- 何を課題としてモデル事業とするのかが不明瞭。
- もう少し具体的な話がないと判断できない。
- 若者の課題解決の手法を提案できる能力を育てるような内容であれば、モデル事業として今後の展開が考えられる。
- 内容としてはモデル事業ではなく教員個人の力で実現できる事業だと思う。
- 若者にまちづくりに参加してもらうのは良い。

4 事業について各委員意見

- 緑のネットワーク事業が一番やりやすい。
- 緑のネットワークが内容がわかりやすい。
- 居場所づくりの問題は興味がある。
- 花苗か緑のネットワークが良い。
- 居場所づくりか緑のネットワークが良い。
- 緑のネットワークと花苗事業は共通箇所もある。緑のネットワークに続く展開としての花苗事業も考えられる。

結論：モデル事業は会長出席の会議で決定する。